

「明日へ／神戸」  
**労働大臣杯 争奪第49回 全日本実業柔道団体対抗大会報告書**

明日へ／神戸 労働大臣杯争奪第49回全日本実業柔道団体対抗大会は6月12日～13日の両日、神戸市須磨区緑台（神戸総合運動公園）のグリーンアリーナ神戸に男子101チーム（1～3部）、女子14チーム（1～2部）男女合計115チーム、780人強の選手を集め、盛大に行われた。

恒例の平成10年度年間最優秀選手は初日の開会式で、永野重雄杯を全日本チャンピオン・アジア競技大会100kg超級金メダルの篠原信一5段（旭化成工業）に、宮崎輝杯をアジア競技大会48kg級金メダルの真壁友枝3段（住友海上火災保険）に、それぞれ授与された。

この日は男子第2部（29チーム）でダイコロAが3-0と東芝を下し、第1部



開会式であいさつする松本 甫副会長

復帰を決めた。また、女子第2部は塩谷建設が1-0で肥後銀行Aを退け、2年ぶり2度目の優勝を遂げた。

最終日の男子第1部（12チーム）は、10月のバーミンガム世界選手権大会100kg超級・オープンに出場する篠原信一5段を主軸とする旭化成Aが3-1で日本道路公団を破り、2年ぶり7度目の優勝旗を握った。同90kg級代表・吉田秀彦4段を擁する新日鐵は準決勝で日本道路公団に1-1の内容負けを喫し、3位にとどまった。日本中央競馬会も3位で並んだ。同第3部（60チーム）は、出場2年目



平成10年度最優秀選手賞を受賞した篠原信一・真壁友枝両選手

の平成管財Aが破竹の快進撃、あつという間もなくダイコロに4-1の大差をつけて初優勝、次年度は第2部に昇格する。女子第1部（5チーム）もバーミンガム代表の52kg級橋崎教子（ダイコロ）、57kg級武田淳子（コマツ）、70kg級上野雅恵（住友海上火災保険）の3人がそろった。2日間にわたる総当たり戦の結果、上位三すくみとなったが、得点差で優勝ダイコロ3勝1敗12点、2年ぶり2度目2位ミキハウス同10点、3位コマツ同8点となった。



開会式 グリーンアリーナ神戸に整列した精鋭

# 男子第一部

## 旭化成2年ぶり7度目の優勝

決勝戦は、前年度優勝の新日鐵を①―①の内容差で破って、初めて決勝に進出した日本道路公団と、日本中央競馬会を3―1で下し、3年連続進出の旭化成の初対決となった。

先鋒は、双方注意を取られ引き分け。次鋒は、新戦力同士の戦いとなり、村元が積



篠原の内股見事に決まる

極的に内股を仕掛け、有効2本を取り3度目で一本を奪う。中堅は、篠原が力の差を見せつけ、指導を取った後、内股で一本。副将は、三谷、中村両ベテランの対決となった。両者注意の後、三谷が朽木倒しなど攻め、残り8秒で中村から警告を奪う。大將戦、下出が圧力を掛け、三宮から早々に指導、掛け逃げによる注意を取り、さらに押え込みで効果を取った。

今大会、旭化成は全本チャンピオン篠原を主砲に古豪下出、中村佳央に学生界トップの村元、高橋を加えた強力な布陣で臨み、2年ぶり7度目の優勝旗を手にした。

日本道路公団の中では、ベテラン三谷が決勝進出を決めた、新日鐵戦井上からの大腰一本をはじめ、3戦全勝と輝いた。

### 優勝監督コメント

旭化成A 樋川 純

上位4チームの実力は伯仲で、当たり方では、どこが来るか分からなかった。たとえば道路公団だから良かったということはない。もっと接戦になると予想していた。

中村本人も4月の世界代表選考会(福岡)で腰を痛めて、2週間前からやっと練習を始めた状況。この大会に出たいという強い意思です。篠原にしても世界代表の強化合宿があつて、その疲れがまだ抜けてない。村元と高橋。この若い新戦力は社会人として初めての試合となるので負担かけないで済むオーダーを考えて組んだ。

延岡で2週間前から

合宿に入り、世界代表

の軽量級・中村弟(行

成と兼三)もいっしょ

にやった。この中で、

見て分かるようにBチ

ームもひけを取るメン

バーではない。振り分

けるのに本当に困った。

そのBの藤田も新日鐵

の吉田と五分の試合を

やった。

それにしても、今年

の優勝は新会長のため

にも就任祝いに花を添

えることになって本当

にうれしい。経済不況

の時期に活気を出すこ

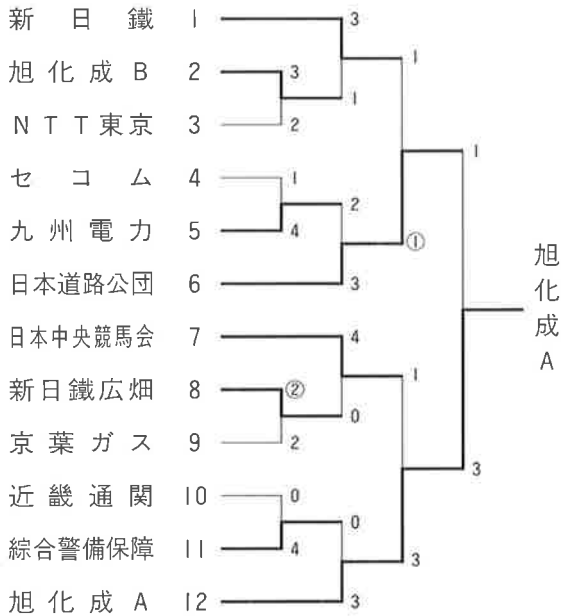
とになるのも良かった。



2年ぶり優勝の旭化成チーム

男子第一部成績表

優勝 旭化成 A  
 準優勝 日本道路公団  
 第3位 新日鐵  
 第3位 日本中央競馬会



【1 回 戦】

旭化成 B 3-2 N T T 東京  
 セコム 1-4 九州電力  
 新日鐵広畑 ②-2 京葉ガス  
 近畿通関 0-4 綜合警備保障

【2 回 戦】

新日鐵 3-1 旭化成 B  
 九州電力 2-3 日本道路公団  
 日本中央競馬会 4-0 新日鐵広畑  
 綜合警備保障 0-3 旭化成 A

【準 決 勝】

第1試合

新日鐵 1-① 日本道路公団  
 ⊖湊谷和幹 4段 足払い 三宮功一 4段  
 増地克之 4段 —×— 田村和也 3段  
 吉田秀彦 4段 —×— 小齋武志 3段  
 井上智和 3段 大腰 三谷浩一郎 4段○  
 永井亮平 3段 —×— 三矢 諭 2段

第2試合

日本中央競馬会 1-3 旭化成 A  
 大下大介 4段 小外刈 村元辰寛 3段⊖  
 藤本博史 4段 大内刈 下出善紀 5段⊖  
 賀持道明 5段 —×— 高橋宏明 3段  
 安蒜健一 3段 内股 篠原信一 5段○  
 ⊖猿渡琢海 3段 注意 中村佳央 5段

【決 勝】

日本道路公団 1-3 旭化成 A  
 小齋武志 3段 —×— 高橋宏明 3段  
 三矢 諭 2段 内股 村元辰寛 3段○  
 田村和也 3段 内股 篠原信一 5段○  
 ⊖三谷浩一郎 4段 警告 中村佳央 5段  
 三宮功一 4段 注意 下出善紀 5段⊖

優 秀 選 手

〔男子〕

第一部

第二部

第三部

〔女子〕

第一部

第二部

篠原信一 (旭化成A)	村元辰寛 (旭化成A)	三谷浩一郎 (日本道路公団)	全己盈 (ダイコロA)	金建秀 (ダイコロA)	前田豊 (東芝)	村田龍一 (平成管財A)	高岩龍 (平成管財A)	牧野貴仁 (ダイコロ)	榊崎教子 (ダイコロ)	カーナフライアント (ダイコロ)	室谷美紀 (塩谷建設)	松本貴子 (塩谷建設)
増地克之 (新日鐵)	猿渡琢海 (日本中央競馬会)	小橋秀規 (綜合警備保障)	生稲良輔 (明送)	吉田裕之 (平成管財B)	齊藤佳久 (東芝A)	吉田早希 (ミキハウス)	本田美和子 (肥後銀行A)					

# 男子第二部

## 世界金の全己盈 ダイコロで復活

決勝は2年ぶりの顔合わせだ。しかし今回はダイコロAに韓国から全己盈という強力な新戦力が加わった。(’93ハミルトン、’95幕張、’97パリの世界選手権大会3連覇と’96アトランタオリンピック金メダル)

先鋒戦。講道館杯などで名を挙げた東芝の矢野が有利かと思っただ人は多かつたらう。しかし、新卒の奥村、中盤わずかのスキに思い切った左内股を掛ければ、矢野たまたま飛んで有効になる。矢野あせって巴投げを放つも無効。大将の金が「奥村、前」と適切な指示を与えていた。

この先取点に続いてポイントゲッター全の登場。低い左背負い投げに、東芝の池田まるく飛んで技有り。引きずるような投げだった。初戦から全て一本勝ち(背負い投げ2、横四方固め1)で進出した全である。池田も残り1分から右内股などで反攻したが力およばず。

中堅は両者警告、副将戦も両者注意で、それぞれ引き分け。

大将戦は33歳のダイコロ・金が右内股で効果、片えり指導、小外刈り技有りと奮戦、これに対し東芝・中根も残り30秒猛反攻。最後まで気を抜けぬ熱戦を満喫できた。

### 優勝監督コメント

ダイコロ・荒牧 勇

去年1部から落ちました。今回は初優勝ですが、狙った通りにやれました。選手も1人ひとり自分の仕事をしっかりやって、もう言うことなしです。全の加入で戦力は楽になり、力がついた。金君は老体にムチ打って頑張ってくれた。全は金君を慕っているので相乗効果も上がった。1部に入るとキビしい。2部落ちしないように頑張る。



第二部初優勝のダイコロAチーム

### 【決 勝】

東	芝	0 - 3	ダイコロA
矢野智彦 4段	内股		奥村俊樹 3段○
池田和久 3段	背負投		全己盈 4段○
中山修 3段	—×—		大野義啓 3段
前田豊 3段	—×—		井上正広 3段
中根慶太 2段	小外刈り		金建秀 4段○

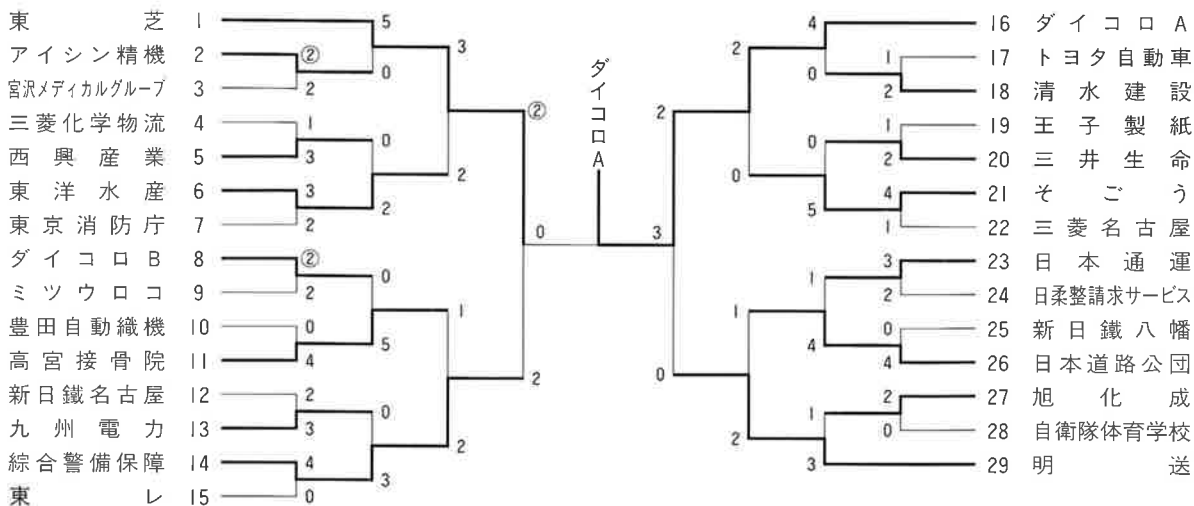
### 男子第二部成績表

優勝	ダイコロA	第3位	総合警備保障
準優勝	東芝	第3位	明送

以上の4チームは次年度第一部に昇格する



全の背負投げ技有り



# 男子 第三部

## 出場2年目、平成管財Aが初

ともにシードのダイコロと平成管財Aが抜群の強さで勝ち上がってきた。平成管財先鋒・村田は学生時代から鳴らした新卒組。右内股連発（効果）から大石公を崩上四方固めに打ち取って先制点。続く秋山も左大外刈り。中堅戦、そうはさせじと粘るダイコロ福井に手を焼いて古賀は時間寸前逆転勝ち。これで勝負は決したが、なお高岩が4点目。大將戦はダイコロ牧野が意地を見せ、背負い投げ効果で一矢を報いた。

### 優勝監督コメント

平成管財 A・葉山 功

社名でお分かりのように平成7年創立の会社で、ビル管理・警備などやっています。ほくも平成8年入社です。去年4〜5人しかいなかったけど「出たい」と社長に話したら「出てみなさい」と。ベスト8まで残りました。社長はスポーツマンが好きで、今年は新卒を補強しました。やるからはトコトンいこうと。来年は2部昇格です。が将来は1部で優勝が目標。



第三部初優勝の平成管財Aチーム

### 【準決勝】

ダイコロ 2-1 平成管財 B  
平成管財 A 3-1 東芝 A

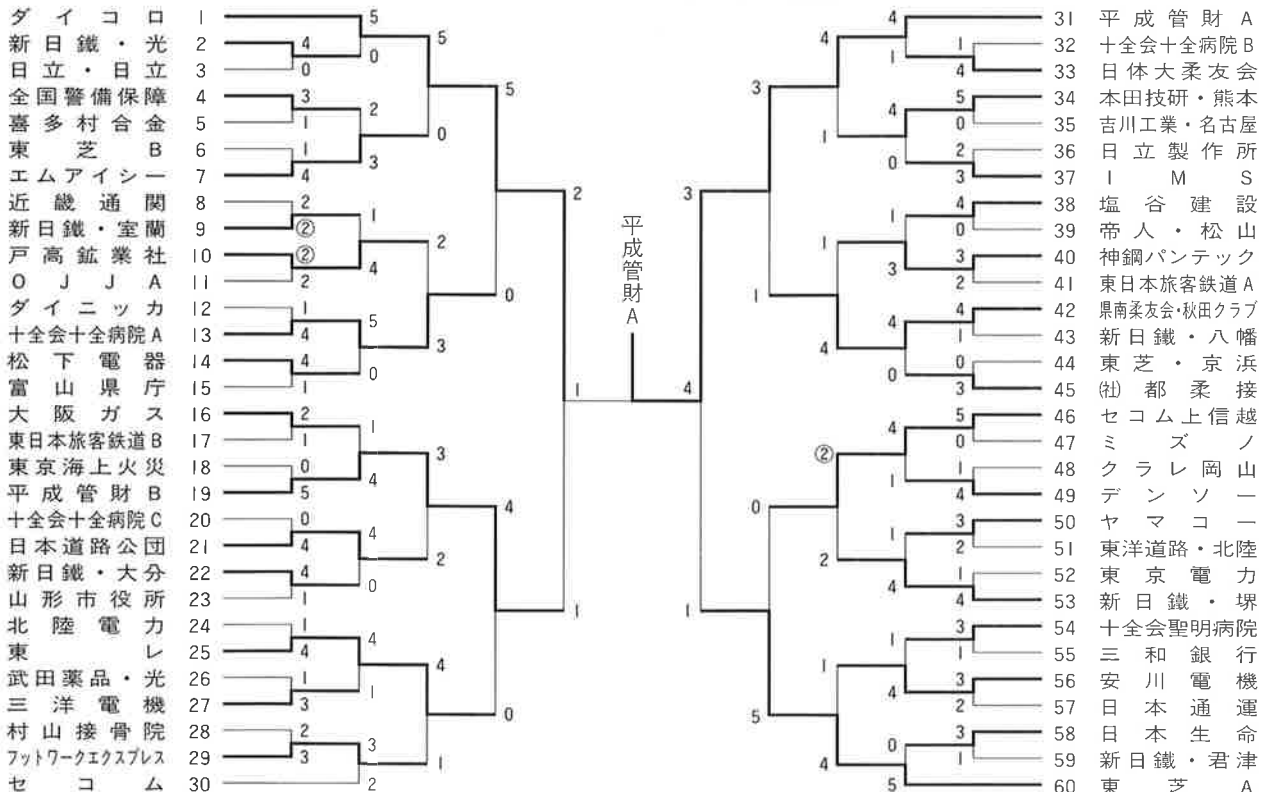
### 【決勝】

ダイコロ 1-4 平成管財 A  
大石公平 3段 崩上四方固 村田龍一 3段○  
大石栄治 3段 大外刈 秋山成勲 3段○  
福井宏治 4段 支え釣込足 古賀宗裕 2段◎  
南條充寿 4段 内股 高岩 功 3段○  
◎牧野貴仁 3段 背負投 流 秀人 3段

### 男子第三部成績表

優勝 平成管財 A 第3位 平成管財 B  
準優勝 ダイコロ 第3位 東芝 A

以上の4チームは次年度第二部に昇格する



# 女子第一部

## 逆転でダイコロ2度目

全勝ミキハウスと2勝1敗ダイコロが最終戦で顔を合わせた。4年連続1位争いをする両社。ミキハウスが勝てば連続優勝、負ければコマツも入れて3勝1敗で三つ巴となり、得点差で順位が決まる。これまでのところダイコロ10点、ミキハウス、コマツ8点――。

先鋒戦、アトラクタ銅メダルの檜崎（旧姓菅原）が杉村から得意の大内刈りで有効、横四方固めでダイコロに先取点。次の永井―立野が勝敗の岐路を占う。永井、立野の大外刈り戻り足を狙って効果、そのまま寝技に移行し、あわやチャンスの一瞬を逃がした。この直後、立野の左小外刈りが飛び、効果となって引き分けは手に汗を握った。

挽回に必死のミキハウスは中堅の中市が藤本を追い返し、効果と指導で1点。続く吉田、これまた積極さを絵に描いたごとく、指導から注意と奮戦。2―1と逆転したミキハウスであったが、大将戦でどんでん返しを食らった。開始わずか10秒、ダイコロはイギリスからの新加入、カリーナ・ブライアント2段（20 || 182 cm、92 kg）の意表を突く出足払いに鈴木香苗無念の一本負け。ヨーロッパ女王・世界選手権イギリス代表の実績を持つブライアントは初日、コマツ戦で鈴木香に大腰で一本負け。かなり

ショックを受けていたが、住友海上の古川に裏投げ一本で気を良くしてからダイコロ逆転優勝に大貢献した。

### 優勝監督コメント

ダイコロ・大山昭三

初日コマツさんに負け、展開として苦しくなったが決意を新たにしました。

今日、ミキハウスさんがコマツさんに勝ってくれたので、他力本願もあるかと――。

最終戦はオーダーが問題だった。ミキハウスの橋本先生も考えて、立野と檜崎を当てなかつた。永井が勝負に出たが、ラストに寝技から立つところを小外で返されて引き分けになってしまった。立野のああいふところは強みです。

カリーナは今年3月のイタリア国際で鈴木香苗を小外刈りと押え込みの合わせ技で一本勝ちしたので自信はあった。



ブライアント逆転の出足払い決まる



女子一部 接戦を制したダイコロチーム

### 【優勝までの対戦成績】

#### 第1試合

ダイコロ	5-0	そごう
○檜崎教子 2段	上四方固	浄法寺しずか 2段
○植田庸子 3段	払腰	長塚正子 2段
○藤本哲子 2段	出足払	渡邊知恵 初段
○柳田恭子 2段	棄権勝ち	海老名裕美 初段
○柳花美鈴 2段	合技	新田智重子 初段

#### 第2試合

ダイコロ	1-3	コマツ
永井和恵 3段	—×—	大塚雅子 2段
○檜崎教子 2段	横四方固	武田淳子 2段
藤本哲子 2段	支え釣込足	天尾美貴 初段○
植田庸子 3段	合技	山田真由美 初段○
カーナブライアント 2段	大腰	鈴木香 4段○

#### 第3試合

ダイコロ	4-1	住友海上
○永井和恵 3段	背負投	真壁友枝 3段
○檜崎教子 2段	大内刈り	横澤由貴 初段
○藤本哲子 2段	双手刈り	貝山仁美 初段
植田庸子 3段	内股	岩藤理恵 初段○
○カーナブライアント 2段	裏投	古川明美 初段

#### 第4試合

ダイコロ	②-2	ミキハウス
○檜崎教子 2段	横四方固	杉村英子 3段
永井和恵 3段	—×—	立野千代里 3段
藤本哲子 2段	小外刈り	中市陽子 2段○
植田庸子 3段	注意	吉田早希 2段○
○カーナブライアント 2段	出足払	鈴木香苗 2段

### 女子第一部成績表 <リーグ戦>

	住友海上	コマツ	ダイコロ	そごう	ミキハウス	勝(負)分	順位
住友海上	—	1-①	1-④	③-2	1-③	1勝3敗	4位
コマツ	①-1	—	③-1	③-1	1-②	3勝1敗	3位
ダイコロ	④-1	1-③	—	⑤-0	②-2	3勝1敗	優勝
そごう	2-③	1-③	0-⑤	—	0-③	4敗	5位
ミキハウス	③-1	②-1	2-②	③-0	—	3勝1敗	2位

# 女子第二部

## 国体強化同士の対決

今秋の熊本国体を支える肥後銀行Aと来秋の富山国体に強化を進める塩谷建設の対決である。前者には拓大・磯川千恵美が、後者には筑波大・磯崎祐子が、それぞれ新卒で戦力に投入されている。

先鋒戦、筑波大の先輩後輩。まず磯崎が巴投げの奇襲で効果を奪い、押え込みに入るが、寝技なら本田も負けていない。わずか3秒で解けた。残り40秒、本田の大内刈りに磯崎崩れて効果。取りつ取られつで引き分け。中堅磯川は左大内刈りで松本を追い詰め、場外近くで寝技に入ろうとするが決め手に欠け、時間のブザー。ここは磯川が取るべきだったろう。塩谷のエース佐野奈津子が左ひじ負傷で欠場中だけに――。

さて大將戦は、けんか四つ。73kg上野が先に右足を出して索制、その上野の出はなを108kg室谷が重量を利かせた小外掛けで効果。これが残り1分05秒。猛烈な勢いで反撃に入る上野に、いきなり室谷の左背負い投技有り決まる（残り10秒）10月の国体が見ものだ。

### 優勝監督コメント

塩谷建設・伊藤 宏

佐野のひじ（5月2日の選抜体重別で負傷）もそろそろ大丈夫。夏の北信越国体ブロック予選と実業団個人戦で復活します。その佐野が「私いなくても大丈夫」と言ったチームで、佐野抜きで優勝したのだから価値がある。2000年国体最終段階強化が出てきたかな。



2年ぶり優勝の塩谷建設チーム

### 【準決勝】

肥後銀行 A	3 - 0	セコム上信越
○本田美和子	3段	崩上四方固
○磯川千恵美	3段	崩上四方固
○上野文子	2段	払腰
東洋観光	0 - 3	塩谷建設
堀利谷子	2段	横四方固
芳岡知加	2段	縦四方固
空田法子	3段	崩上四方固

### 【決勝】

肥後銀行 A	0 - 1	塩谷建設
本田美和子	3段	磯崎祐子 2段
磯川千恵美	3段	松本貴子 3段
上野文子	2段	背負投
		室谷美紀 2段

### 女子第二部成績表

肥後銀行 A	1	①	3	優勝 塩谷建設
総合警備保障	2	1	0	準優勝 肥後銀行 A
セコム上信越	3	①	0	第3位 セコム上信越
日本生命	4	1	0	第3位 東洋観光
東洋観光	5	0	0	
西興産業	6	(準位)	0	
セコム	7	2	1	
肥後銀行 B	8	0	3	
塩谷建設	9	1	2	



決勝戦 室谷と上野の攻防

## 「定時総会」開催される

第38回定時総会は、平成11年6月12日（土）9時15分から新神戸オリエンタルホテル・9階舞子の間（神戸市）で開催され、第1号議案から第5号議案について、満場一致で承認された。

- 第1号議案 平成10年度事業報告
- 第2号議案 平成10年度収入支出決算
- 第3号議案 平成11年度事業計画案
- 第4号議案 平成11年度収入支出予算案
- 第5号議案 平成11・12年度役員

なお、定時総会に先立ち理事会が開催され同議案が承認された。

# 会長交代のお知らせ

6月12日(土)新神戸オリエンタルホテルで開催された「第38回定時総会」において、平成4年6月以来7年間全日本実業柔道連盟の会長として、連盟の財政基盤の確立、活性化、大会の充実など実業柔道の発展に多大な功績を納められました。齋藤 裕会長が退任され、後任の会長として旭化成工業株式会社 代表取締役会長 山口信夫氏が満場一致で承認されました。

## 「新会長略歴」

山口 信夫 (やまぐち・のおお)

大正13年12月23日 広島生まれ

昭和27年3月 東京商科大学(現 一橋大学)卒業

昭和27年4月 旭化成工業入社

平成4年4月 代表取締役会長に就任

東京商工会議所 副会頭

(社)住宅生産団体連合会 会長

中央省庁等改革推進本部 顧問



## 1999年世界柔道選手権大会代表選手 (当連盟在籍者)

無差別・100kg超級



篠原 信一  
(旭化成工業)

90kg級



吉田 秀彦  
(新日本製鐵)

73kg級



中村 兼三  
(旭化成工業)

66kg級



中村 行成  
(旭化成工業)

無差別・78kg超級



二宮 美穂  
(コマツ)

70kg級



上野 雅恵  
(住友海上火災保険)

57kg級



武田 淳子  
(コマツ)

52kg級



榎崎 教子  
(ダイコロ)

48kg級



田村 亮子  
(トヨタ自動車)

## 〔大会日程〕

日 時	男 子		女 子	
	階 級	出 場 選 手	階 級	出 場 選 手
10/7 (木)	100kg超級	篠原 信一 (旭化成工業)	78kg超級	二宮 美穂 (コマツ)
	100kg級	井上 康生 (東海大学)	78kg級	阿武 教子 (警視庁)
10/8 (金)	90kg級	吉田 秀彦 (新日本製鐵)	70kg級	上野 雅恵 (住友海上)
	81kg級	塘内 将彦 (国土館大学)	63kg級	前田 桂子 (筑波大学)
10/9 (土)	73kg級	中村 兼三 (旭化成工業)	57kg級	武田 淳子 (コマツ)
	66kg級	中村 行成 (旭化成工業)	52kg級	榎崎 教子 (ダイコロ)
10/10 (日)	60kg級	徳野 和彦 (神奈川県警)	48kg級	田村 亮子 (トヨタ自動車)
	無差別	篠原 信一 (旭化成工業)	無差別	二宮 美穂 (コマツ)

発行日 1999年7月15日  
 発行人 全日本実業柔道連盟  
 発行協力 事務局長 岩田久和  
 印刷 しゃりなリスト 宮澤正幸  
 印刷 ダイコロ株式会社